

LIVE行って来ました！

影井公彦

11/13 名古屋学院大学 白鳥キャンパス

最近個人的に注目のピアノとカホンによるユニット、→Pia-no-jaC←（公式サイト：<http://pia-no-jac.net/index.html>）が名古屋に来る！ということで、今年の夏のTREASURE05Xで見られなかった雪辱を晴らす為に名古屋学院大学に行って参りました！

15時半頃に会場に着いてお祭り騒ぎを横目に見ながら人の間を縫って会場に入ると既に→Pia-no-jaC←さん達が準備中。

「確か開始は16時からだし、どこか回るか」と思ったその時

「んじゃいきますか」とカホンの人が言った瞬間に演奏がスタート。

「まだ時間前だろ！実行委員～あの二人を止めないと～！」とか思いつつ、ピアノとカホンで作られる世界に浸っている間にあっという間に一曲終了。ここでカホン担当の人のMCが入ります。

「リハーサルなんでね、まあ軽く聞く感じで」

リハーサルかよ！！

というか、ここまで本気のリハーサルは見たことはありません。というか、ここでこんな演奏見たらもう本番見なくていいじゃね？とか思っていたのですが、それは違うということにその後の『本番』で気付くことになるのでした……。

そして、16時。

どうやらタイムスケジュールに変更があった模様。16時→Pia-no-jaC←、17時こまつが、16時からこまつスタート、17時から→Pia-no-jaC←という流れに。

そして、16時。こまつ（<http://sound.jp/komatsu/pc/>）、スタート。

取敢えずライブ前にYOUTUBEでこまつの動画はチェックしてたのですが、正直『うーん、お笑い色強めか。どうだろ？』と思っていたのですが、コレが半端なく面白かった。

やったネタを記憶の限り列挙すると、

- ・パソコンのXPの確認音
- ・スーパーマリオ1の1-1を開始してコインを取得しながらクリボーを踏んづけようとして着地点をミスってクリボーに当たって死んでしまい、怒りのあまりファミコンを蹴ってバグるという流れ
- ・マリオカート（スーパーファミコン版）のスタートする時の音
- ・火曜サスペンス劇場とサザエさんを混ぜ合わせて演奏した『火曜サザエンス劇場』（こまつさん曰く「犯人はノリスケさん」とのこと）

と、覚えているだけでもコレだけ。

文字にすると面白そうに見えないかも知れませんが、再現率と混ざり具合の純度が高くて素晴らしいです。

特にファミコン・スーパーファミコンをやってない、または少ししか齧ってないであろう大学生が爆笑してましたからね。

しかし、かといってネタだけかと思いきや本気の演奏、特にキーボード+トランペットの演奏は目を見張るものがありました。今回の不満と云えばYOUTUBEで聴いたオリジナル曲も聴きたか

った、ぐらいしか思いません。(カラオケ音源でオリジナルは歌ってましたが)

まさか人力で効果音の演奏、そして人カマッシュアップを目の前で見ることになると思いませんでした。

そして、→Pia-no-jaC←の出番!

「まあ、さっきの延長線上だろう」ぐらいに思っていたのですが、胸に「P」と「J」を着けた→Pia-no-jaC←の二人がステージで馬跳びした瞬間に別の意味で→Pia-no-jaC←＝静かに燃える演奏ってPVのイメージがガラガラと崩れ落ちました。

実際のライブはかなりコミカルです。勿論演奏は本気で熱いのですが、そんな中で平然と笑わせてくるんですよ。例えば二人が会場の一転を見据えたまま瞬きせずに演奏を続けたり、(°Д°)

(°Д°) → (°Д°) (°Д°) → (°Д°) (°Д°) → (°Д°) (°Д°) とこんな感じで遊んでみたり……、と、視覚での面白さも全面に押し出してくる。それがギャップがあって面白い。

個人的にはカホンの人の細かな音の出し方に見とれていました。叩く場所、付属させるモノ、そして叩き方によって全然違う音色が出るんですよ。シンプルに見えて実は奥が深い。摩訶不思議。

音を堪能してあっという間の本編が終了し、アンコール。

そこでなんと、こまつと→Pia-no-jaC←の共演が見られました!(こまつの出したCDで以前にコラボしていたそうです)演奏的には→Pia-no-jaC←もこまつもそれぞれの持ち味を存分に発揮してぶつかっていて、終了後に『いいモン見たわ』と誰かに言いたくて仕方ない程に。

→Pia-no-jaC←はライブCD・DVDを出すそうなので是非チェックしてみてください〜。

10/23 名古屋Another Inferno

『「highfashionparalyze」とは、名古屋で活動をしていた元merry go roundの真（KAZUMA）氏とdeadman・the studs等の活動で知られるaie氏のユニット。CDも出ておらず、オフィシャルサイトもmyspaceも無いため、音源を聴ける場所無し。』

THE BACK HORNのライブが終了したのが20：00頃だったので、Another Infernoさんに向けてhighfashionparalyzeが観られると確信して、矢場町まで急ぎ、そして店内へ。

どうやらいつもはクラブらしく、パーカーにジーパンの俺は完全アウェイ。その空気に萎縮しつつも店内で掛かっているのがKMFDMでそんなにアウェイでもないな、と思いつつ、周囲のいつもは見れないであろう格好の人たちを見て、新たな世界に興味津々になっていたら、SEも無く、店内に置かれた椅子に腰掛けた真氏とaie氏が演奏をスタート。目の前が背の高い人ばかりで二人の顔も演奏も見られませんでした。音ははっきりと聴こえました。

なんというか、息苦しい世界なんです。先程のTHE BACK HORNとは違う水の中。三半規管を狂わされたダイバーが、地上だと思って空気を求めて深海に潜っていつてしまう。一切MCの無いその中で、窒息させられてしまう。そんな感覚が全身に広がり、冷や汗が出る始末。

凄いなー、と思ったのはまず真氏の声が衰えてなくて、そのままだったことと、aie氏のギターの音。鳴った瞬間に『aieさんだ！』と思いました。そこが凄いな、と。で、その二人が演奏をしているわけですから、どうなるかっていうと、いい意味で混ざらない。でも、何故か心地いい。不思議な感覚で御座いました。

その後、数分のDJタイムを挟み、初見のDEMONOID 13さんへ。音源をmyspace

(<http://www.myspace.com/demonoid13>) でチラッと聴いただけだったのですが、これがまた、カッコいい。KMFDM好きな方とか気に入ると思います。あと、自分としてはvo・Gt・Machine & Sampleって組み合わせが新鮮でした。あと、名古屋弁バリバリのMCをするvoさんにちょっと和みました。

10/10/23 THE BACK HORN

10/23 ZEPP NAGOYA

自分が所属している同人サークルCMY-KEIのゆのみさんがオススメしている「THE BACK HORN」。今年シングルの『声』をゲットして『声』と『舞姫』が良かったので、気にしておりました。

で、「今年出たアルバム『アサイラム』が凄くいい！」と聞き、大阪に行った際にゆのみさんの家で『戦う君よ』のPVを観て『おおっ！』と思ったので、アルバムを購入するとともに今回のツアーに参加することを決めました。運よく名古屋公演のチケットがゲット出来たのでウキウキとしてZEPPに行っておりました！

公演2時間前には会場に着いていたのですが、何か行列が出来ていました。『早いな』とか思ったら先行でグッズ販売をしていたので、グッズを見ていたら、オールドTシャツが凄くカッコイイデザインだったのでついつい購入。お値段財布に優しい2,500円でしかもTHE BACK HORNのロゴ入りの袋に入れてくれます。嬉しいですね。

さて、ライブ。

会場暗転の後のオープニングSEが掛かっている中『アサイラム』のバックドロップが心臓の鼓動の様に照らされ、THE BACK HORNのメンバーが登場。SEが小さくなり、一曲目がアルバム「アサイラム」の一曲目「雷電」。唱えるような歌い方で、徐々に盛り上がり、弾けていくのが心地よく、その時にふと「このバンドは空気感を作るバンドなんだな」と思いつつ、その空気に沈んでいきました。

このライブで感じたのは、3点。

1点目は、以前ゆのみさんから聞いていた「voは普通に見ると草食系なんだけど、ライブは肉食系だからね〜」が本当にそうだったこと。文学青年のようなvoさんの暴れ方と歌い方が明らかに狩人でした。

2点目は、音で何かを産み出そう、または何かを呼び出そうとしているような感覚に囚われたこと。冒頭のみドルテンポの曲ではそれを孕んでいるものが腹の中からその存在をアピールしているように思い、そして後半の激しい曲で何かが産まれた、そんな風を感じ取りました。

3点目は、『沈む』って感覚があるような気がしました。水の中でも呼吸が出来る不思議な世界に沈んで、時折波に飲まれてどこかへ行く感覚。それはさっきも言った、母親の体の中の世界だったのかもしれない。

ライブ中、ライトの当たり具合でステージにある1つのライトがまるでアサイラムのバックドロップの中に向かう精子のように見えて、次に何を孕むのかを期待してしまいました。

10/10/17 F.I.B主催FIRE CRACKER vol.15

10/17今池HUCKFINN

PIZZA OF DEATHの期待の星、F.I.Bを観にFIRE CRACKER vol.15を観て参りました。

F.I.B以外は、

BLACK BUCK

FREAKYFROG

at Anytime

LIVE FOR BETTER DAYS

の、総勢5組。

どのバンドも流石F.I.Bが選んだバンドだけあって曲の中に「おっ」と思わせるようなメロディーがありました。

さて、件のF.I.Bですが、ツアーを数多くこなしている所為か、演奏がとてまかつちりとしていて、ステージングも盛り上げ方を心得ていました。特筆すべきは2曲目の『KIZUNA』なのですが、CDと若干違うアレンジが入っており、それがF.I.Bの成長を描いている様でとても興奮いたしました。

モッシュ・ダイブせずとも、充分楽しめました。モッシュ・ダイブ好きな人は更に楽しめると思います。あと、前で暴れてる人たち見ると連帯感みたいなものがあるって、決して無法地帯じゃないことがわかりますよ。

オマケ

F.I.B voさん「あ、そこのリュック背負ってる帽子が超似合う子。いつも来てくれるよね～。今日おとなしいじゃない。モッシュやんないの？やんないの？やろうよ～、是非に皆に見せてあげてよ～」

アンコール時

F.I.B voさん「帽子の子、あのモッシュ見せてくれよ～。あ、やってくれるの？お、マジか。皆見とけよ～、忍者みてえだから」

マジで忍者張りのスピードのモッシュとジャンプで御座いましたw

10/10/15 EARL GREYHOUND

10/15 心齋橋CLUB QUATTRO

公演3日前に直前にチケットを入手したのですが、その時点で整理番号が13番。

いや～な予感がしました。

んで、当日。

演奏始まる直前、集まったのは40人程度。

その中で登場するEARL GREYHOUNDの面々。

気まずいなあ、と思ったのも束の間、演奏始まればそこは別の世界、というかテンションが振り切れてる世界。

海外からワザワザ来て、普通、600人規模のステージに40人とかだったら気持ち折れちゃうでしょ？でもね、彼ら、全然そんなことないのですよ。

アットホームなノリでまとめずに、ある意味で突き放す音を放っておりました。

個人的に『S.O.S』の際に我を忘れてヘッドバンキングしたので筋肉痛が酷かったですw

あと、演奏技術が半端なく上手いです。特にドラム。どっしり構える少々太った彼のスティック捌きは観てて、聴いてて心地よかった。特にベースとアイコンタクトをとりながらの演奏は鳥肌モノですよ。

あと、ベースのお姉さんのしゃがれ声は不思議な魅力があります。というか、パッとみた感じだとSOULシンガーに見えます。けどガッツリロック！

ギターさんはイケメンで御座いました。

音としては1stが70年代のロックを彷彿とさせるのに対し、2ndはそれより広がったモノですね。言葉は悪いですが、時代を遡った音を現代に蘇らせてる感じなんですよ。

ちなみに公式サイト (<http://www.earlgreyhound.com/>) の右上のところにメールアドレス入れると2ndアルバムの曲 (GHOST AND THE WITNESS) が1曲フリーでDL出来ます。オススメ。

オマケ

終演後、サイン会が実施された時の一コマ

俺「さ、さいんぷりーず」

ギターの人 (以下：ギ) 「OK!」

俺「Today Live is very very good!(文法とか単語滅茶苦茶です。英語話せないの)」

ギ「Thank you!」

俺「Japanese say today live saikou」

ギ「(頭の横で指をまわしつつ) Psycho?」

俺「No.No.Saikou equal very very good!」

ギ「Oh!Thank you! (がつつり握手)」

俺「Plese come back japan」

ギ「OK!」

ちなみにコレ、メンバー3人全員に言っときました。

ベースのお姉さんに最後に「最高！（´ω`）b」ってやったら、手を叩いて爆笑しながら「Thank you！SAIKOU！」って言ってくれました。

また来てくれ～。

10/13 大阪umeda AKASO

以前からいくつかCDを持っていたギルガメッシュですが、ライブは映像でしか観た事無かったので、観に行ってみりました。

『G』のTシャツを着ている集団に紛れてガンズのTシャツ着てライブを観賞したのですが、感想をストレートに言わせて貰うならば『普通』

いや、音はガッツリしてるし、演奏力もイイと思うんですよ。

特に中程でやった楽器隊のみの演奏なんか戦場のメリークリスマスをロック仕立てにしてたのですねえなあ、とか思ったのですが、前半の曲を聴いてるとどうも同じような曲を並べてるように感じてしまうのです。

ただ、後半は曲の色が見える構成になってたので盛り上がりました。特に新曲は『ギルガメッシュの新しい姿』の片鱗が少しだけ見えたような気がします。

でも個人的にはもうちょっと曲に影が欲しいのと、ライブでの『溜め』みたいなモノが欲しいな、と思いました。

出来るならば来年ぐらいにUSツアーを周ってほしいなあ、と。そこで基準値を大きく上げて、それをアウトプットしてほしい。もっともっと大きくなってほしいんですよ。いやね、超個人的な話ですが今年落ち込んでる時期がありまして、そこで彼らの『ALIVE』と『BORDER』聴いて励まされてるんですよ。それと去年聴いた『Break Down』で聴いたあのヴィジュアル系ではありえない音楽性、そしてギルガメッシュと出会った曲『Real My Place』それぞれに思い入れがあります。各々曲で見た『可能性』が凄く大きいが故に、初心者の俺みたいなやつでもグイグイ引き込まれるようなライブをやってほしいと願ってしまうのです。